



第11回 防衛問題セミナー 迫り来る巨大地震に備えて ～災害から生命を守る～



近畿中部防衛局では、平成21年9月18日(金)、和歌山県御坊市にある御坊市民文化会館で、第11回防衛問題セミナーを開催しました。

まず津田和夫和歌山県危機管理局長が、「和歌山県の防災対策」と題して、県は防災設備や環境を整えたり、啓発活動をする努力(公助)はしているが、一方で近隣住民が力を合わせて救出・支援にあたる(共助)、自分の命は自分で守る(自助)の必要性を説き、公助:共助:自助=1:2:7と位置づけ、自主防災の必要性を説きました。

次に大庭秀昭第37普通科連隊長が、「大規模地震発生時における自衛隊の活動」と題して、災害時に即応できるために、自衛隊が日頃からどのような情報収集・準備・訓練をしているか具体的に紹介すると共に、地方自治体や地域住民の方々とのネットワーク構築の協力も呼びかけました。

最後に人と防災未来センター河田恵昭教授が、「東南海・南海地震と減災対策」と題して、災害対策の意識の甘さ、具体的には、「東南海・南海地震(広域型地震)は必ず起こる、ライフライン及び交通網の長期機能不全、複合災害(水害等)の恐れ、携帯電話の不通、公助は期待できないといったシナリオが欠如している」ことを指摘、啓発しました。

講師への質疑応答では、学校の建物の耐震構造についての質問が出ました。

Q:学校の建物は、震度6を想定して建物の耐震補強をしているが、そのレベルの耐震補強で大丈夫か。

A:学校のような施設は、仮に被害を受けるようなことがあっても、人命にかかわる壊れ方をしないような設計で耐震補強をしているので、建物の被害が原因で生徒が犠牲になるということは、基本的にはないと考える。むしろ災害時に慌てて行動をする方が被害の拡大につながりうるので、日頃から訓練をして、地震が起こったときに、整然と行動できるようにすることが重要だと考える。



また会場にお越しいただいた方からのアンケートより、以下の感想をいただきました。

○和歌山県は、県民の自主防災を強調しつつも、県民を突き放すのではなく、防災に関するDVDやパンフレット等を作成し、啓発活動に取り組んでいることを評価したい。

○自衛隊が、日頃から構築している情報網や訓練を生かし、災害に対して即応体制を整えていること、救援活動に対するシナリオをしっかりと持っていることを大変心強く感じた。

○災害を甘く見ていた。この講演で得た知識を家族と共有し、防災対策体制の再考・再点検を図っていこうと思った。

○防災意識は緩むので、防災意識を高める機会を自分で作り、家族や近所の方と共に対策を練り、訓練重ねていく必要を感じた。

お忙しい中、ご参加いただいた皆様、どうもありがとうございました。皆様からいただいた声をもとに、皆様のご理解に資することができるよう今後も防衛セミナーを開催していきます。(近畿中部防衛局一同)





第11回防衛問題セミナー

(迫りくる巨大地震に備えて～災害から生命を守る～)

式次第

平成21年9月18日(金)

御坊市民文化会館

時 間	内 容	講 師 等
18:00 ～	開 会	
	主催者挨拶	武藤 義哉 (防衛省近畿中部防衛局長)
20:00	講 演 (約50分)	津田 和夫 (和歌山県危機管理局長) 「和歌山県の地震対策」
		大庭 秀昭 1等陸佐 (陸上自衛隊第37普通科連隊長) 「大規模地震発生時における自衛隊の活動」
	休 憩 (約10分)	
	講 演 (約30分)	河田 恵昭 (関西大学理事・環境都市工学部教授 ・阪神淡路大震災記念 人と防災未来センター長) 「東南海・南海地震の最新情報」
	質 疑 応 答 (約20分)	
	閉 会 の 辞	武藤 義哉 (防衛省近畿中部防衛局長)